



お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです

変更手続きをお忘れなく

日頃よりMMWINの各種サービスをご利用いただき誠にありがとうございます。

さて、年度替わりの時期となりましたが、職員様の入退職や異動、MMWINシステムの環境変更等はありませんでしょうか。新年度におかれましても変わらずご利用いただくため、現在の登録や申請内容に変更がございましたら、速やかに当事務局までお申し出くださいますようお願い申し上げます。なお、各種申請に関するご不明な点につきましては、貴施設担当職員までお気軽にお問い合わせください。

変更申請が必要なものとして、以下のとおりです。

人事に関するもの

- 施設代表者の変更
- 施設内情報管理者の変更
- 異動や退職に伴う利用中止
- 新規入職者の利用登録

他

システムに関するもの

- システムリプレイス
- オンライン資格の導入
- ネットワークの変更
- プロバイダの変更

他

ご利用料金に関するもの

- 利用台数の変更
- サブシステム導入・中止
- 病床数の変更

他

お問い合わせフォームをご利用ください

会員施設様からの各種お問い合わせに際し円滑に対応するため、昨年より当協議会ホームページのお問い合わせフォームを更新いたしております。

お問い合わせの記録としても残りますので、ぜひご利用ください。



お問い合わせフォーム
はこちらから



一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号
【事務局】
TEL : 022-395-6312 FAX : 022-395-6313
E-mail : office@mmwin.or.jp URL : http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】
TEL : 022-399-6880 E-mail : support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

MMWIN通信は
最新号からバックナンバーまで
当協議会ホームページに掲載しております



©2024 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



MMWIN® 通信

みんなのみやぎネット® NEWS

2024
3.22
vol. 76

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

IT-BCP対策におけるMMWINの活用 仙台医療センター情報管理室 大沢昌二様

MMWINの各種サービスについて、施設におけるBCP対策の1つとしてこれまでもご紹介しておりましたが、今回は、実際にIT-BCPとしてMMWINを活用されております、仙台医療センター 情報管理室 大沢 昌二様にお話を伺いました。



徳島や大阪の事案のように、昨今、医療機関に対するサイバー攻撃の被害が発生しています。2023年3月には医療法施行規則の改正により、医療機関の管理者に対してサイバーセキュリティの確保が義務付けられました。「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」も第6版に改訂され、各医療機関においても自然災害の事業継続計画（BCP）だけでなく、サイバー攻撃も含めたITシステムに関するBCP（IT-BCP）も求められるようになり、各医療機関においても検討されていることと思います。IT-BCPでは、「平時の予防対策」と「初動対応」、「復旧対応」にわけて考えられます。日々高度化、巧妙化するサイバー攻撃に対して、完璧な予防対策はありません。発生した直後の初動対応と、復旧までの対応方針が予め計画されていることで、被害の影響を抑えることにつながります。

今回は、MMWINのタブレット端末を利用することで、サイバー攻撃により病院の電子カルテ等の診療系ネットワークが長期間利用できなくなった場合でも、速やかに診療情報を参照できる環境が用意できるのではないかと考え、当院のIT-BCPの一つに取り入れたのでご紹介いたします。

自然災害の場合、物理的にサーバーが故障しない限りは患者情報の検索が可能です。しかしサイバー攻撃の場合は、ランサムウェアのデータベースロックや、警察等の介入による証拠保全など、サーバーへのアクセスが制限されることが考えられます。オフラインバックアップからの復元を検討しても、機器の準備に時間がかかります。つまり、患者情報の参照ができない時間が長期間発生する可能性が高いということになります。

大きな費用をかけずに、かつ、有事の際に速やかに過去の診療情報の参照ができる仕組みがないかを検討したとき、MMWINを思いつきました。当院は、MMWIN事業の柱でもある診療情報のバックアップに参加しています。データはSSMIX2形式なので、院内のシステムの完全なバックアップではありませんが、標準的な形式でアップロードされています。せっかくバックアップしているデータがあるのだから、BCPとして活用できないかをMMWIN事務局に相談したところ、2020年からDMATへの貸出を想定したMMWINタブレット端末の運用を開始していることを知りました。インターネット環境があればVPN接続でMMWINの参照が可能です。端末の月額利用料はかかりますが、独自に設備投資をするよりはリーズナブルであると考え、院内で検討し、IT-BCPとして5台貸出をしようこととしました。MMWINでは不足している情報は、別途定期的に電子カルテから抽出し、オフラインで保管をすることにしました。

タブレット端末は、MMWIN側に既に環境があるため、貸出もすぐに対応して頂きました。有事の際に5台では足りないことが考えられます。発生しないことに越したことはありませんが、もしもの時は、事務局にご相談させていただくかと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。



患者加入活動報告



事務局では、患者さんへの加入説明ブースを東北大学病院様をはじめ7施設に設置しておりますが、その他の施設へもスタッフが伺いし、短期の加入活動を実施しております。今回は3施設の活動状況をご紹介します。

仙台市

『若山医院 内科・循環器内科』



活動期間：2023年10月
～2024年1月
活動回数：14回
加入患者数：108名

【患者さんの声】

・心臓の持病を持っています。もしもの時に備えて加入します

・一人暮らしのため、こういった診療情報や服薬情報の共有があると安心です

・診察に入るとどうしても緊張してしまい、覚えていた病名やかかった年を答えられないことがあります。そんな時にもこういう情報共有は大事だと思うので、今後のためにも加入します

【若山 裕司 院長のコメント】

短期間の週1回の患者加入活動でしたが、たくさんの患者様にMMWINに加入していただきました。当院は立地的にも東北大学病院・東北労災病院・JCHO仙台病院等で治療歴のある患者様も多く、以前からMMWINを活用しておりました。MMWINを活用することで、患者様への負担を減らしつつ、より良い医療を提供できると思いますので、今回の出張ブースでの加入活動にはとても感謝しております。



登米市

『八嶋中央診療所』



活動期間：2023年12月～
活動回数：11回
加入患者数：78名

【患者さんの声】

・八嶋先生に今までの情報を引き継いで見てもらえると安心できます

・最初はマイナンバーカード（オンライン認証）と同じかと思ったけど、丁寧に説明してもらえたので、ちゃんとMMWINのことをわかった上で安心して加入します



七ヶ宿町

『七ヶ宿町国民健康保険診療所』



活動期間：2023年11月～
活動回数：9回
加入患者数：32名

【患者さんの声】

・県南中核病院や東北大学病院に通院中なので加入します
・大腿骨骨折で救急車で県南中核病院に運ばれました。その後は、刈田総合病院でリハビリを受けていたので、加入します
・いつ、何が起こるか分からないから加入しておきます

【阿部 翔太郎 先生のコメント】

患者様の医療履歴がわからないまま診察することがよくあります。画像も見れることや 検査履歴が見れることはとても有益です

今後も、施設のご要望に応じて加入活動を実施してまいりますので、MMWIN加入活動支援のご要望等がございましたら、お気軽にご連絡を賜りますようお願いいたします。

MMWIN透析連携

活用プランのご紹介

石巻赤十字病院

石巻圏



透析連携は、MMWINのサブシステムの1つである『文書連携システム』を用いて、透析基礎情報や経過記録をアップロードし、参加施設間で共有することが可能です。この連携は、日頃の施設間連携ばかりではなく、『有事のためのバックアップデータ』という位置づけでも非常に重要であると認識しており、当事務局では定期的にセミナーを開催するなど、会員施設様と積極的なコミュニケーションを図っております。

2023年12月、石巻圏の基幹病院である石巻赤十字病院様が新たに透析連携の運用を開始されたことから、石巻赤十字病院 血液浄化センター臨床工学部 臨床工学技術課 課長 熊谷 一治様に、石巻圏における透析連携の活用プランについてお聞きしました。

MMWIN透析連携システムの導入に向けて、昨年より準備を進めてまいりました。現在はシステムの設定が完了し、今後は患者登録を行い運用開始に向けて準備を進めているところです。

システムの導入により、手術や検査で転入出する患者情報の把握や、夜間休日の緊急透析対応時の患者情報を確認することが可能となり、速やかな対応がとれます。東日本大震災時は、石巻地域のすべての透析患者の受け入れを行いました。受け入れ患者の確認や状態の把握が大変であったと記憶しています。

大規模災害時は、混乱する状況下において正しい患者情報の伝達が重要となりますので、MMWIN上に透析情報を登録・集約しておくことにより、正しい患者情報の伝達が可能となり、ひいては迅速な対応につながることを期待できます。

石巻医療圏において、透析医療が可能な災害拠点病院は当院のみです。石巻圏透析施設災害時ネットワーク（IHD）という災害時の協力支援体制が既に構築されていますが、地域の透析施設からの情報を、容易に当院で参照できる環境が整備できれば、万が一の場合において非常に有効な情報収集のツールになると思います。

また、連携先がMMWIN参加施設であれば、必要に応じて双方の施設で対象患者の情報を参照・共有でき、透析治療だけでなく透析以外の治療においても非常に意義を感じています。一例として、FAXでの送受信により文字や画像が不鮮明で読み取れないようなケースも、MMWINを利用することで回避できるかもしれません。そのためには、日頃から各透析施設がMMWINに患者情報をアップロードすること、透析患者さんの加入者を増やすこと、の2つが重要になってくると思います。当院では、MMWINのスタッフの方と連携し、透析患者に漏れなく加入してもらうことを進めたいと考えています。



臨床工学技術課 課長 熊谷様

